

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 近畿財務局長

**【提出日】** 平成25年12月13日

**【四半期会計期間】** 第96期第3四半期(自 平成25年8月1日 至 平成25年10月31日)

**【会社名】** オーエス株式会社

**【英訳名】** OS CO., LTD.

**【代表者の役職氏名】** 取締役社長 山内 芳樹

**【本店の所在の場所】** 大阪市北区小松原町3番3号

**【電話番号】** 06(6361)3554(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 矢崎 秀成

(上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

**【最寄りの連絡場所】** 大阪市北区角田町1番1号(東阪急ビル内)

**【電話番号】** 06(6361)3554(代表)

**【事務連絡者氏名】** 経理部長 矢崎 秀成

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第3四半期 連結累計期間	第96期 第3四半期 連結累計期間	第95期
会計期間			
売上高 (千円)	5,146,429	5,307,598	8,582,875
経常利益 (千円)	309,279	248,259	663,289
四半期(当期)純利益 (千円)	157,926	129,111	352,550
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	173,675	160,871	406,304
純資産額 (千円)	8,328,011	8,640,668	8,560,453
総資産額 (千円)	30,208,125	31,199,116	30,622,636
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	9.96	8.14	22.24
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	27.6	27.7	28.0

回次	第95期 第3四半期 連結会計期間	第96期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.84	3.58

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式がないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社4社及びその他の関係会社2社で構成されており、「映画事業」「不動産賃貸・販売事業」「ホテル事業」「飲食事業」「その他事業」の5つを報告セグメントとし、各種サービスの提供を行っております。

当第3四半期連結累計期間において、当社グループにおいて営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1)業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出環境の改善や経済対策効果などを背景に企業収益が改善されるなど、緩やかな回復基調にあります。

このような経済環境のなかで、当社グループは、安定した経営・財務基盤を実現するべく、各事業の競争力強化と事業領域の拡大に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の成績は、売上高5,307,598千円と前年同期に比べ161,169千円(3.1%)の増収となり、営業利益は372,893千円と前年同期に比べ73,235千円の減益、経常利益は248,259千円と前年同期に比べ61,020千円の減益、四半期純利益は129,111千円と前年同期に比べ28,815千円の減益となりました。

経営成績をセグメント別で見ると次のとおりであります。

#### (映画事業)

映画事業におきましては、邦画作品では「真夏の方程式」「風立ちぬ」「少年H」、洋画作品では「モンスターズ・ユニバーシティ」「ローンレンジャー」「ワールド・ウォーZ」などの話題作品を上映いたしました。特に「少年H」は、神戸を題材にした話題性と映画館独自の宣伝活動により、好成績を収めております。

本年4月に開業した「OSシネマズ神戸ハーバーランド」(9スクリーン)は順調に稼働し、「OSシネマズミント神戸」と合わせて、神戸地区17スクリーンにて多彩な番組編成を行ってまいりました。「OSシネマズ神戸ハーバーランド」におきましては、開業にあわせ、直営館初となる自動券売機を導入し、運営の効率化を図ってまいりました。

また、社会貢献活動といたしまして、「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」に参画し、特別上映会の実施を通じて心豊かな地域文化の確立に取り組んでまいりました。

売上高は2,009,768千円と前年同期に比べ218,911千円(12.2%)の増収となりましたが、「OSシネマズ神戸ハーバーランド」の開業に伴う諸経費の増加により、セグメント利益(営業利益)は94,373千円と前年同期に比べ16,039千円の減益となりました。

#### (不動産賃貸・販売事業)

不動産賃貸業界におけるオフィスビル市況は、依然として賃料相場の弱含みが継続しております。東京都心5区ではオフィスビルの新規供給が一巡した影響もあり、本年10月末の空室率は7.5%と緩やかな回復傾向にありますが、大阪ビジネス地区では新築大型ビルに成約の動きが見られたものの、空室率は9.8%と依然供給過多の厳しい状況が継続しております。

このような状況のなか、不動産賃貸事業におきましては、空調更新工事やLED化工事を実施するなど、環境対策に取り組んでまいりました。当第3四半期連結累計期間末における保有ビルの稼働率は95.6%を維持したものの、賃料水準につきましては厳しい状況で推移いたしました。

不動産販売事業におきましては、共同事業者と推進しております分譲マンション「プレミアブラン 東園田」は本年2月より販売を開始し、来年1月の竣工に向け鋭意取り組んでおります。

また、本年1月に取得した大阪府守口市の分譲マンション用地は、「ブレイジア守口松町 ザ・レジデンス」として本年9月に着工し、販売開始に向け準備を進めております。

売上高は2,101,357千円と前年同期に比べ118,752千円(5.3%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は669,271千円と前年同期に比べ74,265千円の減益となりました。

#### (ホテル事業)

大阪のホテル業界は、国内旅行やビジネス利用の宿泊需要を下支えに訪日旅行者も増え、堅調に推移いたしました。

このような状況のなか、「梅田OSホテル」におきましては、客室設備の充実を図るとともに、高速無線LANサービスを導入するなど、快適な空間の提供に取り組んでまいりました。また、インターネット宿泊サイトにおいて、お客様のニーズに合わせたプランを提供し、稼働率の向上に努めてまいりました。

売上高は508,557千円と前年同期に比べ33,404千円(7.0%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は89,875千円と前年同期に比べ44,005千円の増益となりました。

#### (飲食事業)

飲食業界は、景気回復の兆しから消費マインドの持ち直しが期待されるものの、消費者の節約志向は依然根強く、食材や公共料金の高騰による厳しい経営環境が継続しております。

このような状況のなか、飲食事業におきましては、メニューの充実を図るとともに、販売促進活動に取り組み、顧客満足度の向上に努めてまいりました。

売上高は297,872千円と前年同期に比べ15,806千円(5.6%)の増収となりましたが、セグメント利益(営業利益)は12,783千円と前年同期に比べ3,395千円の減益となりました。

#### (その他事業)

アミューズメント業界は、個人消費の伸び悩みに加え、スマートフォンの普及によるゲームの多様化が進んだことにより、厳しい状況が継続しております。

このような状況のなか、「namco三宮店」は昨年に実施したりニューアルの効果により、堅調に推移いたしました。

売上高は390,042千円と前年同期に比べ11,799千円(3.1%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は58,624千円と前年同期に比べ2,109千円の増益となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、前連結会計年度末と比較して総資産は576,479千円の増加となりました。これは主に現金及び預金564,550千円の減少がありましたが、販売用不動産820,943千円、有形固定資産129,924千円及び差入保証金100,449千円の増加によるものであります。

負債につきましては496,264千円の増加となりました。これは主に長期借入金920,492千円及び未払法人税等193,158千円の減少がありましたが、短期借入金1,674,938千円の増加によるものであります。

純資産につきましては80,214千円の増加となりました。これは主に利益剰余金49,853千円及びその他有価証券評価差額金31,759千円の増加によるものであります。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### (5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、前連結会計年度末に計画中でありました、神戸市中央区所在の「OSシネマズ神戸ハーバーランド」の建築工事につきましては、平成25年4月に完了いたしました。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年10月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年12月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	16,000,000	16,000,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	16,000,000	16,000,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年8月1日～ 平成25年10月31日		16,000		800,000		66,506

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 149,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 15,563,000	15,563	
単元未満株式	普通株式 288,000		
発行済株式総数	16,000,000		
総株主の議決権		15,563	

(注) 単元未満株式数には、自己株式866株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年10月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) オーエス株式会社	大阪市北区 小松原町3番3号	149,000		149,000	0.93
計		149,000		149,000	0.93

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年8月1日から平成25年10月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年2月1日から平成25年10月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,201,259	636,709
売掛金	255,535	242,914
販売用不動産	1,618,289	2,439,232
商品	8,484	11,367
貯蔵品	1,619	2,956
前払費用	84,310	103,496
繰延税金資産	67,362	60,596
その他	12,927	32,060
貸倒引当金	7,729	7,777
流動資産合計	3,242,060	3,521,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,781,200	23,279,248
減価償却累計額	12,523,080	12,865,410
建物及び構築物(純額)	10,258,120	10,413,838
機械装置及び運搬具	245,809	313,701
減価償却累計額	111,309	130,040
機械装置及び運搬具(純額)	134,499	183,661
工具、器具及び備品	740,433	890,535
減価償却累計額	638,033	673,787
工具、器具及び備品(純額)	102,399	216,748
土地	15,073,710	15,073,710
建設仮勘定	189,303	-
有形固定資産合計	25,758,033	25,887,957
無形固定資産		
ソフトウェア	27,575	88,671
その他	10,849	10,425
無形固定資産合計	38,424	99,096
投資その他の資産		
投資有価証券	397,137	428,736
長期前払費用	204,758	179,134
差入保証金	511,542	611,992
建設協力金	415,136	421,262
繰延税金資産	8,694	10,089
その他	65,424	25,114
投資損失引当金	38,000	-
投資その他の資産合計	1,564,693	1,676,330
固定資産合計	27,361,152	27,663,384
繰延資産		
社債発行費	19,424	14,174
繰延資産合計	19,424	14,174
資産合計	30,622,636	31,199,116

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	178,792	130,980
短期借入金	3,422,674	5,097,612
未払金	110,846	45,009
未払費用	328,574	258,068
未払法人税等	272,583	79,425
未払消費税等	36,916	9,809
賞与引当金	43,660	97,064
その他	230,387	305,439
流動負債合計	4,624,435	6,023,408
固定負債		
社債	1,700,000	1,700,000
長期借入金	9,481,914	8,561,422
長期預り保証金	2,293,466	2,270,082
繰延税金負債	1,358,451	1,348,045
再評価に係る繰延税金負債	2,420,920	2,420,920
退職給付引当金	182,994	234,568
固定負債合計	17,437,748	16,535,039
負債合計	22,062,183	22,558,448
純資産の部		
株主資本		
資本金	800,000	800,000
資本剰余金	66,506	66,506
利益剰余金	4,340,865	4,390,718
自己株式	91,857	93,255
株主資本合計	5,115,514	5,163,969
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70,453	102,213
土地再評価差額金	3,374,484	3,374,484
その他の包括利益累計額合計	3,444,938	3,476,698
純資産合計	8,560,453	8,640,668
負債純資産合計	30,622,636	31,199,116

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)
売上高	5,146,429	5,307,598
売上原価	4,081,592	4,298,612
売上総利益	1,064,836	1,008,985
一般管理費	618,707	636,092
営業利益	446,128	372,893
営業外収益		
受取利息	6,419	6,803
受取配当金	2,890	3,561
協賛金収入	3,047	3,047
その他	2,046	5,474
営業外収益合計	14,404	18,887
営業外費用		
支払利息	132,707	129,394
その他	18,545	14,126
営業外費用合計	151,252	143,521
経常利益	309,279	248,259
特別利益		
投資損失引当金戻入額	-	1,724
補助金収入	3,771	-
特別利益合計	3,771	1,724
特別損失		
固定資産除却損	38,319	18,753
OSシネマズ神戸ハーバーランド開業費用	-	17,586
固定資産圧縮損	3,771	-
特別損失合計	42,090	36,339
税金等調整前四半期純利益	270,960	213,644
法人税、住民税及び事業税	162,843	107,133
法人税等調整額	49,810	22,600
法人税等合計	113,033	84,532
少数株主損益調整前四半期純利益	157,926	129,111
四半期純利益	157,926	129,111

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	157,926	129,111
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	15,748	31,759
その他の包括利益合計	15,748	31,759
四半期包括利益	173,675	160,871
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	173,675	160,871
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【会計方針の変更等】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年10月31日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年2月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 なお、これによる当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。  
 なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年10月31日)
減価償却費 513,073千円	減価償却費 526,280千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年2月1日 至 平成24年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月25日 定時株主総会	普通株式	39,636	2.50	平成24年1月31日	平成24年4月26日	利益剰余金
平成24年9月13日 取締役会	普通株式	39,634	2.50	平成24年7月31日	平成24年10月12日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年2月1日 至 平成25年10月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月25日 定時株主総会	普通株式	39,632	2.50	平成25年1月31日	平成25年4月26日	利益剰余金
平成25年9月13日 取締役会	普通株式	39,626	2.50	平成25年7月31日	平成25年10月11日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年2月1日至平成24年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	映画事業	不動産賃貸・販売事業	ホテル事業	飲食事業	その他事業	計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	1,790,857	2,220,109	475,153	282,065	378,243	5,146,429		5,146,429
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高		130,816				130,816	130,816	
計	1,790,857	2,350,926	475,153	282,065	378,243	5,277,245	130,816	5,146,429
セグメント利益	110,412	743,536	45,870	16,179	56,514	972,512	526,384	446,128

(注) 1. セグメント利益の調整額 526,384千円には、セグメント間取引消去 2,143千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 524,241千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年2月1日至平成25年10月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	映画事業	不動産賃貸・販売事業	ホテル事業	飲食事業	その他事業	計	調整額(注1)	四半期連結損益計算書計上額(注2)
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	2,009,768	2,101,357	508,557	297,872	390,042	5,307,598		5,307,598
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高		115,864				115,864	115,864	
計	2,009,768	2,217,221	508,557	297,872	390,042	5,423,462	115,864	5,307,598
セグメント利益	94,373	669,271	89,875	12,783	58,624	924,927	552,034	372,893

(注) 1. セグメント利益の調整額 552,034千円には、セグメント間取引消去 2,325千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 549,709千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)
1株当たり四半期純利益金額	9円96銭	8円14銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	157,926	129,111
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	157,926	129,111
普通株式の期中平均株式数(株)	15,853,822	15,851,729

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、平成25年12月13日開催の取締役会において、下記のとおり固定資産を譲渡することを決議いたしました。これに伴い、平成26年1月期の連結損益計算書において、「固定資産売却損」として特別損失557百万円を計上する予定であります。

(1) 譲渡の理由

「姫路OSビル」の資産価値を最大限に活かす方向で鋭意検討を重ね、当該固定資産の譲渡を決定いたしました。

(2) 譲渡する相手先の名称

譲渡先(法人)につきましては、譲渡先との取り決めにより開示を控えさせていただきます。

なお、譲渡先と当社の間には、資本関係、人的関係、取引関係、関連当事者として特記すべき事項はありません。

(3) 譲渡資産の内容

資産の内容及び所在地	帳簿価額	譲渡価額	現況
姫路OSビル 土地 1,033.00㎡ 建物 8,831.63㎡ 姫路市駅前町254番地	1,887百万円	1,376百万円	賃貸事業用ビル

(4) 譲渡日

平成25年12月19日(予定)

2 【その他】

第96期(平成25年2月1日から平成26年1月31日まで)中間配当については、平成25年9月13日開催の取締役会において、平成25年7月31日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	39,626千円
1株当たりの金額	2円50銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年10月11日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年12月13日

オーエス株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 河 崎 雄 亮 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 田 英 明 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているオーエス株式会社の平成25年2月1日から平成26年1月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年8月1日から平成25年10月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年2月1日から平成25年10月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、オーエス株式会社及び連結子会社の平成25年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。